Osaka Shoin Women's University Repository

紹介

北村英子著『なまめかし』

原田芳起

外函と奥付とに〈平安美的語詞「なまめかし」の研究〉という副題が付いている。著者の志向する所が何であったが、それで察せられよう。

北村さんは昭和三十八年三月に本学を卒業したかたである。本学在学中は物静かな、あまり目立たない存在であった。卒業後、関西大学大学院に入学してからの方が、母校である本学の研究室にしばしば姿を見せて、根気強い研究意欲を発揮して、私たちを感心させる人になったように思う。大学院では、田中重太郎博士や吉永登博士の指導のもとに、特に万葉や平安文学の語詞の意味や表現の緻密な追求を目標に研究を続けられたようである。たまたま私もそれと似た領域で文学語彙の意味論・意味史に関する論考を書き続けていたので、私の研究室に来て私の意見を求めたり、北村さんみずからの研究経過や企画を語ったりする事も多くなった。北村さんという人は実に息の長い、努めて倦むことのない人である。大学院の修士課程から博士課程へと進む間に、一方では中学や高校の教壇に立ちながら、研究への情熱の火をしめらせない。それが実を結んだのが本書である。

本書は、最初に要約的な「序説・なまめかし美の展開」を据え、以下「物語文学」「日記文学」「随筆文学」「和歌文学」と、分野を分けて、平安時代のほとんどの主要作品について、「なまめかし」で表現された全用例を検出、観察を遂げ、簡潔に要約記述したものである。はでに議論したり、筆を舞わせたりしないで、事実に即して事実のままに記述を進めてある点が、利用者に取っては特に便利であろう。最後に置かれた「結語」、みごとに要約されている。ここまで文章を切り詰めてまとめあげることは大変な事だと思う。ごまかしがきかないから、大変だと思うのである。

本書では、「附録」が本論に劣らず、極めて重要な意味を持っている。二つに分かれている。

Ⅰ　「なまめく」「なまめかし」品詞別・活用形別全用例

Ⅱ　資料一覧表

Osaka Shoin Women's University Repository

このIの用例集は単純な例文集でなくて、場面・文脈をこまかに吟味することが出来る程度に長文のままに載録されている。この種の審美感の表現は、場面を具象的に再認識した上でなければ納得しがたい事が多い。本書は例文の長きを厭わず、一例文が時に四百字原稿紙一枚を埋め尽くす程のものも少なくない。IIの「資料一覧表」は、Iと表裏をなしていて、Iのなまのままの用例を整理して一覧することの出来るように工夫されている。文例をまず「接続する語」「品詞名活用形」によって整理し、それぞれを「対象」（何に向けられているか）の上からチェックしている。「人物」か「事物」か、性別は、衣裳は、色彩は、というようにこまかにチェックして、図表化している。これを作品別に、さらに要すれば巻・篇名で総括してある。「個数」という欄が設けてあるが、これはたとえば「源氏物語」の「桐壺」には「なまめかし」という単語が何回使用されたかを示す頻度であろう。（この点、表の形としていささかわかりにくいのではないか。）ともあれ、「附録II」の一覧表は、意味論的考察をまとめる上には有益なものである。

田中重太郎博士は、本書に序文を書かれて、「引用本文の底本にも学問的に細心の考慮がはらわれていて、まことに良心的である」と評し、「わが国はじめてのなまめかし辞典」としての価値が高いと記された。吉永登博士も、師の立場から、北村さんの「根気強さ」「気迫」を賞めて、「未熟さを指摘されるかもしれない」が、「学界に何等かの寄与することを疑わない」と記しておられる。けだし適評であろう。

（桜楓社刊・A5二三四頁・定価八、八〇〇円）

（一五五ページよりつづく）

国語学研究13号　東北大学
文学論藻48号　東洋大学
短期大学紀要5号　東洋大学短期大学
東海学園国語国文5・6号
苫小牧工業高等専門学校紀要9号
潮流9号　潮流同人
文学科紀要1号　富山大学文理学部
学術研究22号　早稲田大学
国文学研究52～54号　早稲田大学